

弥生時代の大型土坑

—東海地域を中心として—

● 蔭山 誠一

弥生時代の尾張地域の遺跡においてよくみられる大型土坑について、形態や埋土の特徴から、その機能の主体を生活道具類の廃棄と考え、遺跡中では居住域に多く、墓域に少ないことを明らかにした。さらに阿弥陀寺遺跡の事例から大型土坑が竪穴住居の周囲 10m 程の範囲に掘られ、被熱痕跡がある埋土の土坑が竪穴住居群の間の空閑地に多いことを推定した。また東海地域の弥生時代～古墳時代前期前半にかけての遺跡にみられる大型土坑についても分析し、尾張地域における占地と同様な特徴を確認した。東海地域では沖積微高地に立地する遺跡において多くの大型土坑が掘られ、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の遺跡に少ない傾向を指摘した。

1 はじめに

尾張地域における弥生時代の集落遺跡を発掘調査すると、竪穴住居、掘立柱建物、井戸、方形集溝墓、環濠、土坑、溝など様々な形態をした遺構が検出できる。筆者は、近年当センターにおける発掘調査に携わる中で、比較的土器など遺物が多く出土し、阿弥陀寺遺跡の報告などにおいて焼土や炭、灰層を堆積する土坑として分析された大型土坑について、当地域の弥生時代集落を考える資料にならないだろうかという認識を抱いていた。

今回分析するような大型土坑は、1967 年に石野博信氏により弥生時代における貯蔵のための施設としてとりあげられた「貯蔵施設の三形態」である「屋内小土坑」、「屋外土坑」、「高床倉庫」の「屋外土坑」の一部に当たり、弥生時代の貯蔵施設について「中期以降の三者の実態を要約すれば、住居に接していくつかの屋外土坑が付設され、住居内には小土坑が、離れて集落の一面には高床倉庫が建てられるという形態をとる」としてまとめられた「屋外土坑」の恐らく大部分に当たるものと思われる。石野氏が当時全国で蓄積された弥生時代集落の調査事例を網羅して分析された労作であり、各地の屋外土坑についてその機能等にも追求された研究で

ある（石野 1967）。今回の分析は貯蔵施設としての大型土坑ではないが、大型土坑の占地の結論は石野氏の屋外土坑の実態とされたものと同じものを想定しているものと考えられる。同様に弥生時代前半期の北部九州地域を中心に分布する袋状竪穴についても、弥生時代の貯蔵施設として武末純一氏が竪穴住居との関係から高床倉庫と推定される掘立柱建物との集落内における位置関係から分析を試みられている（武末 1991）。また弥生時代の北部九州地域に展開する墓域内にある「墓域縁土坑」について、多くの土器類が出土する類例から墓前における祭祀に関する分析がある（川上 1995）。

以上から考えると弥生時代の遺跡において、様々な形態をとり、広く展開する遺構として認識できる可能性が高いように思われる。そのために弥生時代における遺跡の分析・研究の中では、集落の広がりや変遷を考えるための材料にはなってきたが、個別の研究素材としてはあまりとりあげられてこなかったものといえるだろう。

よって本論では、弥生時代の東海地域における集落遺跡において、大型土坑がどのように展開するのか、立地との関係、時期的変遷、遺跡内における占地の特徴について検討したい。尚、本論では土坑の平面における長径が 1.0m 以上のものを主体に分析し、また長径 0.5m 以

上 1.0m 未満のものを中型土坑としてとりあげ（溝状の遺構は除く）。

2 大型土坑の特徴

まず、大型土坑の特徴について弥生時代の発掘資料が多く、遺跡立地等条件が均質な尾張地域における遺跡調査の事例をもとに考えたい（表 1）。

(1) 大型土坑の形態分類とその傾向

大型土坑の規模は、大きいもので長径が 10m を超し、短径においても 3m を超すものがあるが、全体的には短径が 1 m 前後であり、竪穴住居より小さい。遺構の深度は規模により様々であるが、30cm ～ 50cm 前後のものが多いように思われ、全体的には竪穴住居よりは深い遺構として検出される場合が多い。

形態に関しては、一色青海遺跡において平面の形態分類を、阿弥陀寺遺跡において埋土の分類がされている。この結果からは、土坑の使われ方には焼土と灰層・炭層が互層になるものや炭層が顕著にみられるもの、多量の土器が出土するもの、それらがあまりみられないものが存在することから、機能の違いを推定できるが、土坑の平面や断面形態との対応関係はあまり認められていない。また焼土と灰層・炭層のラミナ堆積が顕著に認められる土坑は、土坑内における火の利用も考えられるが、土坑内の壁面が被熱しているものはない。阿弥陀寺遺跡の報告に指摘があるように、集落遺跡の土坑の埋土は違いがあり分類は可能ではあるが、ほとんどの土坑に炭化物は含まれ、多くは程度の差とも考えられる。

よって当地域にみられる弥生時代の大型土坑の大部分は、井戸や土坑墓を除くと形態と埋土などの特徴から廃棄を主体とした性格のものといえる。

(2) 遺跡内における占地

今回対象にしている大型土坑の遺跡内における分布について考える。

居住域に分布する土坑

遺跡の居住域に展開する土坑の存在について

は、土坑自体が竪穴住居や掘立柱建物と同様、遺跡における居住域を構成する要素と考えられて分析されることもあるので、ほとんどの遺跡の居住域内にみられる。しかし、遺構の検出状況において重複が認められる大型土坑と竪穴住居・掘立柱建物等の建物遺構は、検出状況からは同時存在があり得ないものと考えられ、建物遺構との占地の関係の変化がみられるものといえる。

実際に竪穴住居と掘立柱建物が検出され、大型土坑が 10 基以上見つかった遺跡には、弥生時代前期・中期前葉・中期中葉前半・中期中葉後半・中期後葉・後期・古墳時代前期の朝日遺跡、弥生時代前期頃の三ツ井遺跡、山中遺跡、弥生時代中期前葉～中期中葉の志賀公園遺跡、猫島遺跡、弥生時代中期中葉～中期後葉の阿弥陀寺遺跡、大淵遺跡、一色青海遺跡、勝川遺跡苗田地区、弥生時代後期末～古墳時代前期前半の廻間遺跡がある。厳密な時期分類ができていない朝日遺跡を除くと、ほぼ同一時期において多数の竪穴住居が検出されている猫島遺跡、阿弥陀寺遺跡、大淵遺跡、一色青海遺跡では竪穴住居と大型土坑の重複関係が比較的多くみられ、阿弥陀寺遺跡竪穴住居 SB28、猫島遺跡 00Aa 区竪穴住居 SB07 等のように 1 棟の竪穴住居に数基重複・隣接して分布するものがある。一方当然であるが、建物遺構の検出数が少ない遺跡では異なる時期と考えられる建物遺構とは重複がみられるが、ほぼ同一時期においては建物遺構と重複する大型土坑は比較的少なく、大型土坑は建物遺構の周囲 10m 程の範囲に分布する。ただし、猫島遺跡、阿弥陀寺遺跡、大淵遺跡、一色青海遺跡においても、ほぼ同一時期に分類される建物遺構との関係では、重複する大型土坑より、建物遺構の周囲に分布し重複しない大型土坑の方が多い。

以上の分析からは、大型土坑は竪穴住居等の建物遺構と重複する立地条件において遺跡内に占地し、遺構の検出状況から考えれば、竪穴住居等建物遺構が検出されない（検出できていない）部分（建物遺構の周囲の部分）からも検出される（検出できる）遺構の形態的条件をもつと同時に、相対的には竪穴住居等建物遺構の周囲（周囲 10m 程の範囲）に占地する条件を持

つものと考えられる。弥生時代中期後葉以後に多く検出される井戸は、朝日遺跡、一色青海遺跡、八王子遺跡、阿弥陀寺遺跡のように旧河道の際や谷状の窪地等、居住域の縁辺にみられ、建物遺構の周囲 10m の範囲より遠くに分布する傾向がある。また弥生時代中期の猫島遺跡、大淵遺跡、一色青海遺跡、阿弥陀寺遺跡のように堅穴住居とほぼ同数程度（それ以上の場合もある）、検出される状況がある。

墓域に分布する土坑

ここでは方形周溝墓・墳丘墓が分布する範囲を墓域と考え、その範囲内に分布する大型土坑を取り上げる。ほぼ同一時期において方形周溝墓・墳丘墓内およびその周辺に分布する大型土坑が検出されているのは、弥生時代前期頃の三ツ井遺跡、山中遺跡、弥生時代中期前葉～中期中葉の猫島遺跡、志賀公園遺跡、弥生時代中期後葉の阿弥陀寺遺跡、一色青海遺跡、弥生時代後期の山中遺跡、古墳時代前期初頭の廻間遺跡、土田遺跡、西上免遺跡、弥生時代中期前葉～古墳時代前期の朝日遺跡等がある。また土坑墓と考えられるものもある。この中で、明確に大型土坑と方形周溝墓・墳丘墓と重複関係が認められるのは、三ツ井遺跡、猫島遺跡、志賀公園遺跡、弥生時代後期の山中遺跡、古墳時代前期初頭の廻間遺跡、土田遺跡、西上免遺跡があり、弥生時代中期の志賀公園遺跡の一部、弥生時代後期の山中遺跡、朝日遺跡の一部のように方形周溝墓・墳丘墓内にある埋葬主体部に関する土坑と土器棺に伴う土坑と考えられるものもあるが、ほぼ同一時期か近い時期において墓域と居住域が隣接する猫島遺跡、志賀公園遺跡、廻間遺跡等では、大型土坑が方形周溝墓・墳丘墓の周溝と重複している場合もあり、土坑の性格が必ずしも墓域に関連するものではない可能性がある。西上免遺跡の墳丘墓では大型土坑と墳丘墓に重複関係が認められるが、報告されているように墳丘墓に関連する祭祀等に伴う土坑の可能性もある。また阿弥陀寺遺跡、一色青海遺跡では大型土坑（ここでは井戸も含む）との重複はなく、井戸等が埋没しないまま居住域から墓域に変遷する状況を示している可能性が高い。弥生時代前期頃の三ツ井遺跡では方形周溝墓と報告される方形状に廻る溝があり、堅穴住

居の周溝とも考えられるが、時期分類が不明であるので、居住域から墓域への変遷する状況を示しているものと考えておきたい。

以上の分析からは、方形周溝墓・墳丘墓の埋葬主体部に関する土坑、土器棺に伴う土坑を除くと墓域に伴う大型土坑は少ないといえる。

(3) 大型土坑の占地からみた遺跡の復元

ここでは発掘調査報告において土坑埋土の分類が行われ、居住域が広く調査されている阿弥陀寺遺跡における弥生時代中期中葉前半の遺構配置について分析したい。阿弥陀寺遺跡のⅠ期とされる堅穴住居、掘立柱建物、大型・中型土坑、溝等の遺構を示したのが図 1 で、北東から南西にのびる尾根状微高地上全体に遺構が形成されていることがわかる。この中で、堅穴住居が地形の傾斜に沿って北東から南西に分布する 4 群に分かれることがわかる。大型・中型土坑は一部堅穴住居と重複するものがあるが、大きくは堅穴住居の周辺に分布することが分かる。興味深いことに、土坑の埋土 A 類と分層された単一層からなり分層できない土坑は堅穴住居周辺に混在して分布するものが多く、埋土 C 類と分類された焼土と灰層・炭層が互層になるものや炭層が顕著にみられる大型・中型土坑は北 1 堅穴住居群と北 2 堅穴住居群の間の地点や北 2 堅穴住居群と南 1 堅穴住居群の間の地点、南 1 堅穴住居群と南 2 堅穴住居群の間になる地点を中心にやや集まって分布する傾向が見られ、埋土の状況が異なる二者がやや異なった地点に分布する。この状況から考えると、弥生時代中期中葉前半の阿弥陀寺遺跡の人々は、堅穴住居・掘立柱建物等建物遺構の周囲に大型土坑を掘り、さらに隣の堅穴住居群との境界部分（堅穴住居の周囲 10m 程のところ）に掘った大型土坑の中に焼土・灰層・炭層が埋まっていく（埋めた？）行為が行われた指向性が認められるのである。また大型土坑の中でも土器等の遺物が比較的顕著にみられるのは堅穴住居の近在のものであり、住居から離れるにつれて土器等の廃棄が少なくなる傾向がある様に思われる。

同様な状況は弥生時代中期後葉の一色青海遺跡 95Ca 区・95Cb 区・96A 区にもみられる。また、弥生時代中期中葉～後葉の西上免遺跡に

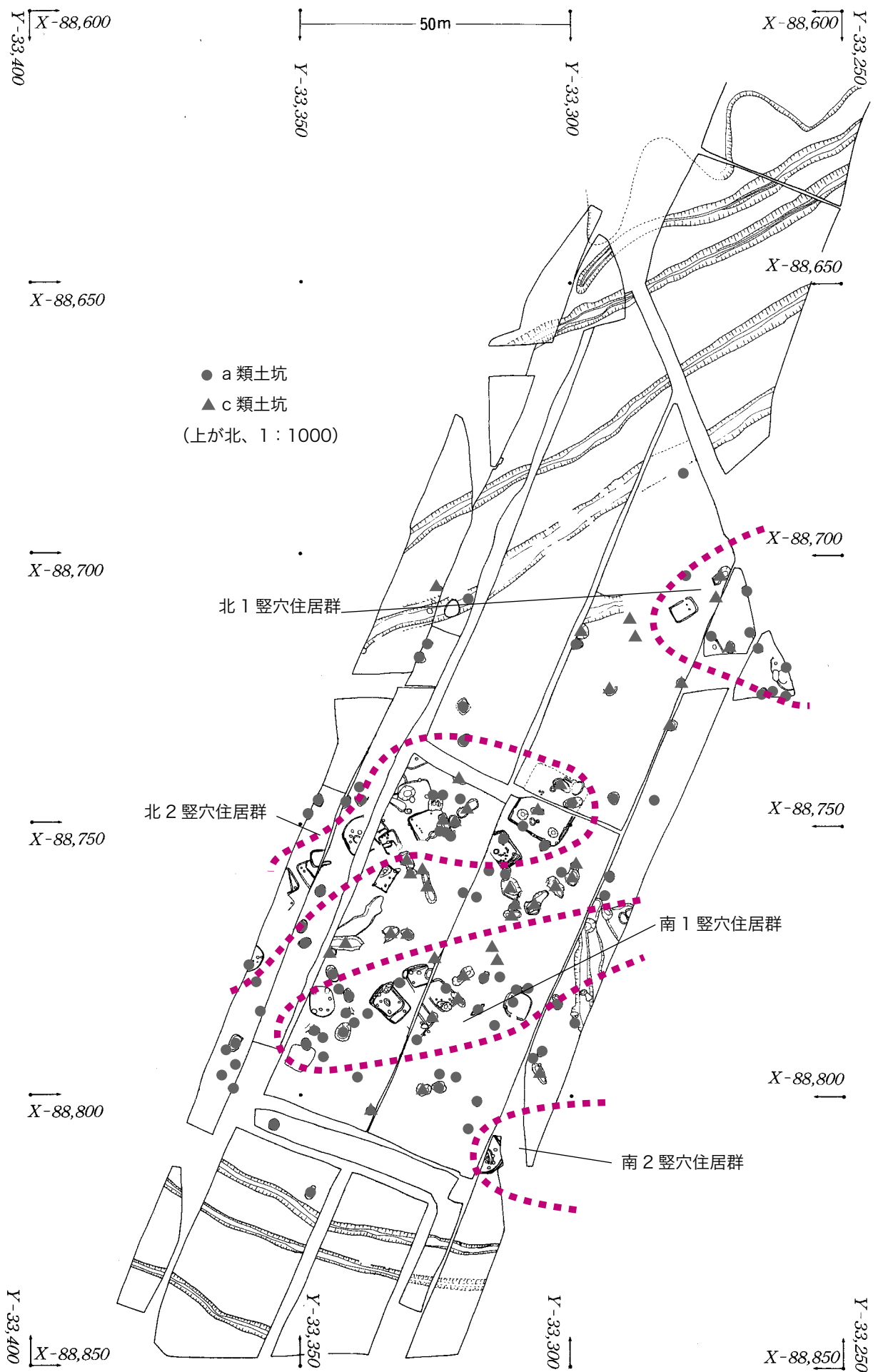


図1 阿弥陀寺遺跡の大型土坑（弥生時代中期中葉前半）

において指摘されているように、地点により分布する土坑の特徴が異なる状況も同様な傾向を示しているのかもしれない。

3 東海地域における大型土坑の展開

それでは先に触れたような状況が、異なる条件（立地、地域等）の遺跡においてもみられるであろうか。弥生時代における東海地域の大型土坑の有無を検討したのが表1である。

(1) 遺跡立地と時期的変遷

沖積微高地（氾濫原地帯、谷底平野、扇状地縁辺沖積微高地を含む）に立地する遺跡で大型土坑が10基以上検出されている遺跡は、愛知県では弥生時代前期の月縄手遺跡・山中遺跡・三ツ井遺跡、弥生時代前期・中期前葉・中期中葉前半・中期中葉後半・後葉・後期の朝日遺跡、弥生時代中期中葉後半・後期・古墳時代前期初頭の八王子遺跡、弥生時代中期前葉～中期中葉の志賀公園遺跡・猫島遺跡、弥生時代中期前葉～中期後葉の西上免遺跡、弥生時代中期中葉前半・中葉後半・中期後葉・後期の阿弥陀寺遺跡、弥生時代中期後葉の大淵遺跡・一色青海遺跡・勝川遺跡苗田地区、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の山中遺跡、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の廻間遺跡がある。三重県では弥生時代前期の村竹コノ遺跡、弥生時代中期前葉の蔵田遺跡、弥生時代中期後半の下川原遺跡、弥生時代後期の堀町遺跡がある。この他10基以上ある可能性が高い遺跡は弥生時代前期の愛知県松河戸遺跡、弥生時代中期の三重県納所遺跡がある。

洪積台地（丘陵、河岸段丘を含む）の遺跡では愛知県では弥生時代後期～古墳時代前期初頭の見晴台遺跡、三重県では、弥生時代中期前葉～中葉の東庄内B遺跡、弥生時代中期中葉前半の和遅野遺跡、弥生時代中期（中葉主体）の片野遺跡、弥生時代中期後葉の菟上遺跡・永井遺跡、弥生時代後期の堀町遺跡・小谷赤坂遺跡がある。この他10基以上ある可能性が高い遺跡は弥生時代中期中葉前半の三重県古里遺跡がある。

以上の弥生時代前期から古墳時代前期初頭の

遺跡において、大型土坑の多くつくられる遺跡は沖積微高地に立地する遺跡に多く、洪積台地に立地する遺跡は少ない傾向がある。大型土坑の時間的変遷では、弥生時代前期には既に多く掘られており、以後弥生時代中期後葉の遺跡で多数検出されている。弥生時代後期～古墳時代初頭においては、先に分析した墓域に関連する山中遺跡、西上免遺跡、居住域に関連する廻間遺跡、朝日遺跡、八王子遺跡等、尾張地域の沖積地において比較的多数の大型土坑がみられるが、他の地域においては堅穴住居等の遺構のあり方から考えると大型土坑が少ない傾向がある。ただし、三重県辻子遺跡のように沖積地の遺跡や洪積台地に立地する弥生時代後期の環濠集落である小谷赤坂遺跡では比較的多くの大型土坑がみられ、異なる状況がある点は留意される。

(2) 洪積台地上の弥生時代遺跡にみられる大型土坑

前節において、東海地域における弥生時代の大型土坑について、洪積台地上に立地する遺跡に少ない傾向を指摘した。この傾向は大きくは変わらないと思われるが、洪積台地上の遺跡においても沖積微高地に立地する遺跡と同様に大型土坑が掘られることは重要である。

大型土坑の遺跡内における占地を検討すると、堅穴住居や掘立柱建物等の建物遺構と重複関係があるものは、弥生時代中期後葉の愛知県橋良遺跡において2基、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の見晴台遺跡で数基、南山畑遺跡で1基、三重県では、弥生時代中期前葉～中葉の東庄内B遺跡で2基（1棟の堅穴住居に）、弥生時代中期後葉の菟上遺跡において5基（1m内外に隣接するものが8基）、弥生時代後期小谷赤坂遺跡において2基、古墳時代前期後半の三重県新畑遺跡において3基（堅穴住居2棟に）あるだけで、大型土坑は建物遺構の周囲に分布し、重複する例がある遺跡は比較的多数の堅穴住居が検出されている遺跡に限られる。また墓域との関連でも弥生時代中期（中葉主体）の片野遺跡において、時期は不明であるが方形周溝墓と重複する関係にある大型土坑の例があ

るのみで、先に触れた尾張地域の大型土坑の占地の傾向がより明瞭に確認できる。

形態的特徴を細かく分析できていないが、楕円形から隅丸長方形の平面形態で断面丸底状の様々な形態をしており、規模も尾張地域の状況と類似するように思われる。

(3) 縄文時代晩期の遺跡にある大型土坑

弥生時代前期の東海地域において、すでに今回分析したような大型土坑が存在することは明らかで、縄文時代晩期にさかのぼって存在する可能性も高い。縄文時代後期～晩期の岐阜県西田遺跡や愛知県三斗目遺跡、縄文時代晩期の三重県蛇亀橋遺跡では、今回の大型土坑に分類できる土坑が竪穴住居周辺に分布する傾向がみられる。一方、愛知県牛牧遺跡では竪穴住居の周辺に土坑墓とされる大型土坑が多数みられ、愛知県麻生田大橋遺跡では土器棺墓の分布と径1.0m 前後の平面円形状、断面やや袋状の形態が復元できる土坑が並行する時期に存在する状況が見られる。また三重県森添遺跡においては大型土坑が住居跡、配石遺構、焼土面などとともに多数あり、時期的変遷の多様さと同時に重複関係も多数みられる。

東海地域における縄文時代晩期の遺跡では、大型土坑が平面楕円形状断面丸底状のものと平面円形状断面袋状のものに大きく分類でき、前者は土坑墓と分類されるものが多く、居住域の内部から近在に分布する可能性がある。

4 まとめ

以上の分析において、東海地域弥生時代の遺跡における大型土坑の主に占地の状況について分析したが、遺跡の居住域内部において竪穴住居等建物遺構と分布するものの、竪穴住居との重複は少ないことは明らかで、竪穴住居を始めとする建物遺構が存在する地点が人間活動の拠点とするならば、大型土坑が分布する地点はその縁辺といえる。ここではさらに主に居住域に分布する大型土坑の特徴について、大型土坑の占地から朝日遺跡と菟上遺跡を分析し、その補足をしてまとめとしたい。

(1) 大型土坑のない地点

朝日遺跡の南居住域において基盤砂層上に弥生時代の遺物包含層を堆積しない黒色土の堆積が確認される地点が数カ所ある。これらの部分は弥生時代の朝日遺跡において遺構の掘削が地中深くに及ばなかった地点であり、掘削されなかった可能性が高い場所である。既に指摘されているように遺跡南居住域を縦断する大溝等の土手状の遺構（堆積）が存在した可能性のために遺構が形成されなかった可能性もあるが、その他にもこのような地点が散在することから考えると、今回詳細な分析はできないが弥生時代の一定期間窪地であった可能性が高い地点と考えられる。したがって朝日遺跡の南居住域内の場合、竪穴住居を始めとする土坑（大型土坑から小柱穴まで）・溝などがどのような状態で変遷していったか細かな変遷をたどることは困難であるが、大型土坑が環濠に囲まれた居住域の内部においても、窪地状になる地点には分布せず、窪地の周辺に分布する状況がみられる。この状況は性質の異なる可能性があるが、弥生時代遺跡の集落外側の窪地・谷・後背湿地において大型土坑が分布しない状況と類似する。

また集落域が比較的広範囲に調査された弥生時代中期後葉の菟上遺跡においては、居住域の状況が復元されており、大型掘立柱建物が検出された地点においてはあまり大型土坑が分布せず、反対に幅20m程の谷であるST802の延長上にあたる窪地状になる地点にまとまった数の大型土坑が検出されており、周囲の丘陵微高地状に立地する竪穴住居群から周囲10m程の中に入る。一定の継続期間をもつ遺跡であり、細かな遺構変遷は不明であるが、報告書の分析においては、建物の規模・形態、出土遺物の分布も鑑み、大型竪穴住居と大型掘立柱建物を中心とする区域を「集落中枢部」と位置付け、谷ST802を囲む丘陵微高地の竪穴住居群を含む区域を「一般成員居住区・工房区」として役割分担が存在したことを指摘されている。先に述べた竪穴住居が形成される空間に大型土坑が少ない傾向のより明確に区分された状態を菟上遺跡の大型竪穴住居と大型掘立柱建物が存在する周囲の地点において形成されていたものと考え

られる。

(2) 集落研究のための評価

以上の分析から導き出された大型土坑の占地のあり方を模式的にあらわしたのが図2である。居住域内部において竪穴住居の周囲10m程の範囲を中心に掘られ、隣接する竪穴住居群との中程に火の痕跡のある堆積物が埋まる行為が行われた。そして住居の周囲20mの範囲でほとんどが掘られ、周縁やその外縁の大型土坑として掘られるものとして井戸や墓域の周縁にある土坑墓がある。このような状況が認められるならば、尾張地域の沖積微高地にみられる大型土坑が竪穴住居等と重複する地点が多い遺跡

は、居住域における地点（役割の違う場所）の変換が行われた痕跡を残すものと考えられ、細かな遺跡変遷が究明できるならばより多様な遺構変遷が存在した可能性が高いものと考えられる。またこのような状況が沖積微高地に立地する尾張地域の弥生時代における集落構造の特徴ともいえないであろうか。一方で、洪積台地に立地する弥生時代の集落において、大型土坑が掘られない理由（単にゴミとなった遺物を集落外に持ち出すのか等）についても考えていく必要があるように思われる。今後の課題としたい。

本論を作成するにあたり、木野本和之氏・川北秀実・水野多栄氏のご教授、ご協力を得た。記して感謝の意としたい。

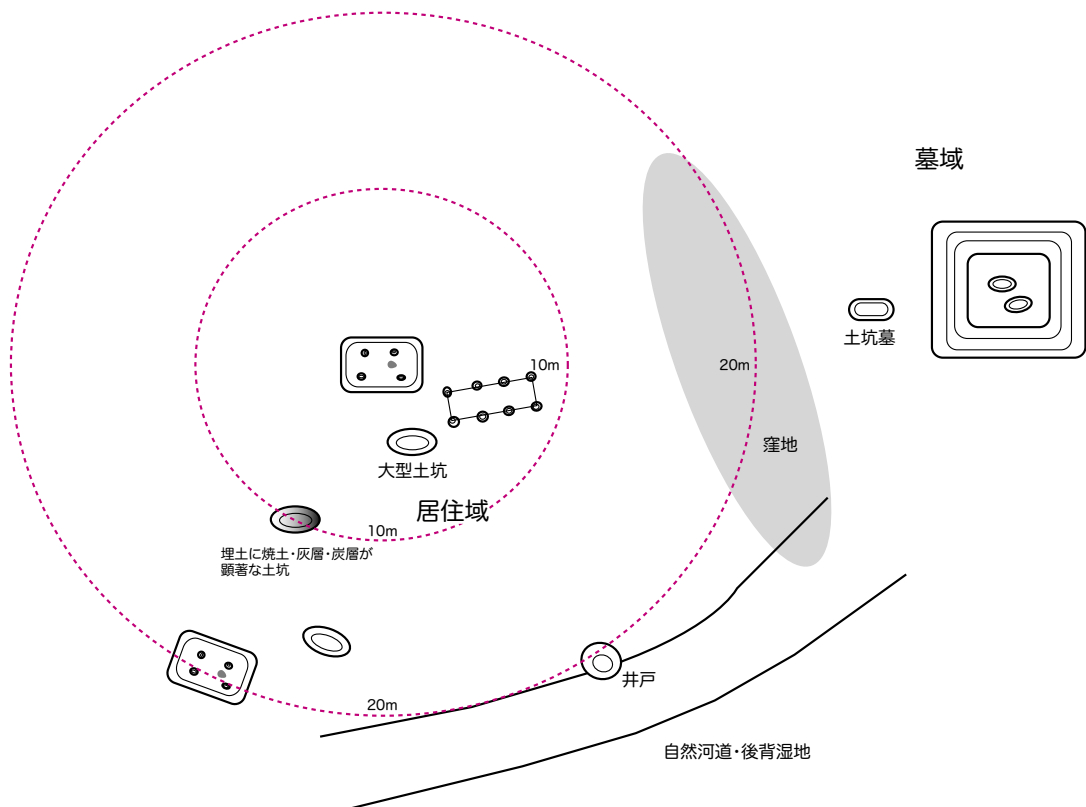


図2 弥生時代における大型土坑の占地

参考文献

本論では、報告書による遺跡事例の分析についての研究を取り上げていない。今後他地域における各遺跡の分析事例を検討していく必要があるものと思われる。尚、今回取り上げた報告書の引用文献は各遺跡の遺構データとともに表1において記述した。

石野博信 1967 「貯蔵施設の貯蔵施設」『関西大学考古学研究年報Ⅰ』。

武末純一 1991 「倉庫の管理主体—北九州の弥生拠点集落例から—」『古文化論叢』児嶋隆人先生喜寿記念事業会。

川上洋一 1995 「弥生時代の墓地における土器出土状況の分析—北部九州と吉備を中心にして—」『考古学研究』第42巻第2号、考古学研究会。

表 1 東海地域における弥生時代の大形土坑

県名	市町村名	遺跡名	立地	調査面積 (㎡)	時期	竪穴住居等	大型土坑	中型土坑	備考	文献
愛知県	一宮市	三ツ井遺跡	沖積微高地	12100	縄文時代後期	0棟 (報告では)	1	4	大型土坑はSK180(竪穴住居に)。中型土坑はSK180の周囲に。田中伸明・鬼頭剛編「三ツ井遺跡」『愛知埋蔵文化財センター調査報告書第87集』財団法人 愛知埋蔵文化財センター	田中伸明・鬼頭剛編「三ツ井遺跡」『愛知埋蔵文化財センター調査報告書第87集』財団法人 愛知埋蔵文化財センター
愛知県	津田市	三斗子遺跡	洪積台地	約1300	縄文時代後期～晩期	竪穴住居1棟、竪穴5基、集落・配石遺構2基	約30		竪穴住居は北東、西側は南東。遺構2基	総合報告編1993「三斗子」三斗子遺跡」『愛知埋蔵文化財センター調査報告書第47集』財団法人愛知埋蔵文化財センター
愛知県	名古屋市中区	牛久保遺跡	洪積台地	1250	縄文時代後期～晩期	竪穴住居1棟、土器貯蔵43基	35基		遺跡の時間幅が大きく、大型土坑の大部分に土器遺構の可視化と土器遺構の	

[illegible]

県名	市町村名	遺跡名	立地	調査面積 (1)	時期	遺構・土坑等	大型土坑	中型土坑	備考	文献
愛知県	春日井市	瀬川遺跡	春日地区		弥生時代中期後半	竪穴建物29棟	20	3	大型土坑の内3基建物と重複する。他は建物の周辺10m以内、溝と重複するもの1基。木製品の貯蔵用とされるものあり。	埋蔵文化財センター調査報告書第19集「財団法人 愛知埋蔵文化財センター、島上昇編1992「瀬川遺跡Ⅳ」、『愛知埋蔵文化財センター調査報告書第29集』財団法人 愛知埋蔵文化財センター
三重県	名張市	下川原遺跡	中嶋地、旧町道目 熱湯防枝の敷設地	7700	弥生時代中期後半	竪穴建物4棟以上（方形、新しい傾10度）	19	1	大型土坑の内2基は柱状土坑。竪穴建物内のもの（10m位）は含まず。大型土坑と竪穴建物（SB11のみ）の切り合いは3カ所。1基は柱状のもの、1基は方形埋蔵量の形状のもの、他に重複はない。柱間の周辺10m位に存在する状況を示す。	門田了三1986「下川原遺跡、名張市遺跡調査会
三重県	土佐町	上の山遺跡	佐伯石段上	約2400	弥生時代中期後半	方形埋蔵量2基、溝1条	0		上村安生1992「上の山遺跡発掘調査報告、『三重県埋蔵文化財調査報告103』、三重県埋蔵文化財センター	
愛知県	豊橋市	橋渡遺跡 1次・2次	河津段丘低位面	11020	弥生時代中期後半	竪穴建物21棟、方形埋蔵量2基	4	0	大型土坑の内SK01は竪穴建物の出入口のもの、SK02・SK03は竪穴建物と重複している。その他は柱間に隣接する。居住域内の土坑とSK02は時多量出土。全体に深さ30cm内外で多い。	小林久彦・水野孝彦1994「橋渡遺跡、『豊橋市埋蔵文化財調査報告第18集』、豊橋市教育委員会
愛知県	豊田市	高瀬遺跡(第4次・第39次)	洪橋台地	3240	弥生時代中期後半	竪穴建物1棟	0	0	久本孝典・斎藤直樹他1969「高橋遺跡、豊田市教育委員会	
愛知県	名古屋市中区	高瀬遺跡(第34次・第39次)	赤橋台地	3700	弥生時代中期後半	竪穴建物2棟	0	0	村大誠編2003「埋蔵文化財調査報告書46高瀬遺跡(第34次・第39次)、『名古屋文化財調査報告60』、名古屋市教育委員会	
愛知県	知立市	天神遺跡A地区	洪橋台地	530	弥生時代中期後半	竪穴建物5棟（SK01は含まず）	0	0	岡本政史編1986「知立市西中瀬跡発掘調査報告書 天神遺跡（A・B）」、知立市教育委員会	
愛知県	知立市	天神遺跡B地区	赤橋台地	1520	弥生時代中期後半	竪穴建物2棟、横王式土器貯蔵所1基	0	1	大型土坑は深さ30cm。竪穴建物と重複しない。	岡本政史他1987「知立市西中瀬跡発掘調査報告書 天神遺跡（A・B）」、知立市教育委員会
愛知県	知立市	常盤切通跡A区	洪橋台地	600	弥生時代中期後半	竪穴建物3棟、竪穴建物2棟	0	1	大型土坑は40cm。この弥生時代代の土坑は中型土坑1基。	岡本政史他1988「知立市西中瀬跡発掘調査報告書 常盤切通跡A区」、知立市教育委員会
愛知県	春日市	阿部谷等遺跡	沖積礫地	約15000	弥生時代中期後半	竪穴建物5棟、方形埋蔵量3基	81	8	大型土坑は坪6基含む。	石屋山編1990「阿部谷等遺跡、『愛知埋蔵文化財センター調査報告書第11集』、財団法人 愛知埋蔵文化財センター
愛知県	稲沢市	一色海岸遺跡	沖積礫地	約20600	弥生時代中期後半	竪穴建物94棟、竪穴建物6棟、方形埋蔵量2基、溝1基、溝32条、排水溝9条	30	7	大型土坑は坪1基含む。10間の遺構変遷のp2時期に竪穴建物との重複が多い。	石屋山編1998「一色海岸遺跡、『愛知埋蔵文化財センター調査報告書第79集』、財団法人 愛知埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	八王子遺跡	沖積礫地	23740	弥生時代中期後半	竪穴建物5棟、方形埋蔵量9基	7	不明	大型土坑の内2基は方形埋蔵量の主体部	島上昇編2001「八王子遺跡、『愛知埋蔵文化財センター調査報告書第92集』、財団法人愛知埋蔵文化財センター
愛知県	稲沢市	大瀬遺跡	沖積礫地	410	弥生時代中期後半	0棟	25	20	北條敦史2004「大瀬遺跡発掘調査報告書、稲沢市都市開発部・稲沢市埋蔵文化財調査委員会	
愛知県	豊田市	川瀬遺跡	沖積礫地	12500	弥生時代中期後半	竪穴建物294棟、方形埋蔵量2基、土器貯蔵所6基	10		大型土坑の内3基が竪穴建物と重複しているが、竪穴建物・中央部にはない。縁辺が多い。	稲瀬信博・赤野文彦・島崎剛・堀本真子編2001「川瀬遺跡、『愛知埋蔵文化財センター調査報告書第93集』、財団法人 愛知埋蔵文化財センター
愛知県	津州市	朝日遺跡	沖積礫地	約50000	弥生時代中期後半	竪穴建物72棟(南側)+1棟(東側)、竪穴建物1棟(北側)	176(南側) 4(東側) 2(北側)	56(南側) 50(東側) 50(北側)	石屋山編1991「朝日遺跡、『愛知埋蔵文化財センター調査報告書第30集』、財団法人愛知埋蔵文化財センター	
岐阜県	岐阜市	寺田遺跡	佐伯段丘微高地	約5500	弥生時代中期後半	竪穴建物21棟	6以上	1以上	遺構不明土坑が、88(南側)+1(北側)。	吉田英敏他1987「寺田・日野」、岐阜市教育委員会
三重県	四日市市	上野遺跡	河津段丘	3496	弥生時代中期後半	竪穴建物24棟	0	2	土坑は全所で20基弱。竪穴建物と分布が重複する。	春日井他1991「上野遺跡、『四日市市遺跡調査文化財調査報告書Ⅳ』、四日市市遺跡調査会
三重県	四日市市	上野遺跡2	河津段丘	1982	弥生時代中期後半	竪穴建物3棟、竪穴建物2棟、方形埋蔵量1基	0	3	大型土坑の内2基は住居内の「貯蔵穴」、1基は土器埋蔵穴。	春日井他1992「上野遺跡2、『四日市市遺跡調査文化財調査報告書Ⅹ』、四日市市遺跡調査会
三重県	白山市	大角遺跡	河津段丘縁辺	200	弥生時代中期後半	竪穴建物2棟	0	1	大型土坑の重複は最大5棟。大型土坑はST802の上縁部、橋掛地、角正子子「菊上遺跡発掘調査報告、『三重県埋蔵文化財調査報告227-7』、三重県埋蔵文化財センター	
三重県	四日市市	菊上遺跡	丘陵	36718	弥生時代中期後半	竪穴建物126棟、竪穴建物33棟、方形埋蔵量3基	78	64	竪穴建物の重複は最大5棟。大型土坑はST802の上縁部、橋掛地、角正子子「菊上遺跡発掘調査報告、『三重県埋蔵文化財調査報告227-7』、三重県埋蔵文化財センター	
三重県	津市	長瀬遺跡	丘陵上	3700	弥生時代中期後半	竪穴建物57棟、竪穴建物10棟、竪穴建物176棟	1		大型土坑は竪穴建物柱穴を含まない。土坑は柱穴を含めて池田清行2000「長瀬遺跡発掘調査報告、『三重県埋蔵文化財調査報告227-6』、三重県埋蔵文化財センター	
三重県	津市	山田遺跡	丘陵上	1100	弥生時代中期後半	竪穴建物15棟	4		大型土坑は竪穴建物と重複していないが隣接する。	中村光司・橋本隆昌他1995「大古穴遺跡・山田遺跡・宮ノ前遺跡発掘調査報告、『三重県埋蔵文化財調査報告115-4』、三重県埋蔵文化財センター
三重県	津市	長瀬遺跡 1次（津市）	丘陵上	約750	弥生時代中期後半	竪穴建物13棟	0		多量出土	菅原重光1989「長瀬遺跡発掘調査報告、津市教育委員会
三重県	玉城町	仲内遺跡	丘陵の裾部	400	弥生時代中期後半	竪穴建物1棟	0	0	三重県教育委員会1979「復元郡玉城町仲内遺跡、『昭和48年度県営埋蔵物調査事業地埋蔵文化財調査報告』	
三重県	四日市市	永井遺跡	台地上	約2800	弥生時代中期後半	0棟（いくつかわりそう）、方形埋蔵量2基（北側）	13以上	0	大型土坑は方形埋蔵量の南側に隣接する。方形埋蔵量に隣接するものもある。	三重県教育委員会1973「永井遺跡発掘調査報告、四日市市教育委員会
三重県	名張市	辻子戸遺跡B地区	沖積礫地	600	弥生時代中期後半	竪穴建物1棟	不明	0基	中村信裕「名張市赤目跡辻子戸遺跡・上野野遺跡、	
三重県	三郷町	中之丘遺跡	三角州	3000	弥生時代中期	土坑と重ねているものを名めて方形埋蔵量が存在	2以上		谷本敦次1972「中之丘遺跡発掘調査報告10』、三重県教育委員会	
三重県	津市	静瀬遺跡	沖積礫地	12500	弥生時代中期	竪穴建物15棟以上、方形埋蔵量5基	14		大型土坑は土器溝として報告されている。土坑は大小2000程度。	伊藤久嗣・吉水肇夫1980「静瀬遺跡・瀬崎と遺跡一」、三重県教育委員会
三重県	一志町	片野遺跡	河津段丘低位面	4430	弥生時代中期（中期中葉が主体）	竪穴建物6棟（中瀬新設）、方形埋蔵量3基	16	3	竪穴建物の内1棟は方形埋蔵量のSDか。大型土坑のp5基は方形埋蔵量のSDとした。大型土坑と竪穴建物と重複するものもある。	河津信幸1985「片野遺跡発掘調査報告、『三重県埋蔵文化財調査報告69』、三重県教育委員会
愛知県	春日市	新瀬遺跡	沖積礫地	1950（E-H区のみ）	弥生時代中期後半 弥生時代後期	G区 竪穴建物7棟 2（F区）	4（G区） 2（F区）		大型土坑はG区が中期後葉1基、後葉3基、E区が中期後葉2基。G区で中期後葉の開口1基。G区は柱間と重複していない。	長嶋広・安藤義弘、加藤安信1990「新瀬遺跡発掘調査報告書、『春日町町史』文化財調査報告Ⅱ、愛知県西部都市目専門教育委員会

県名	市町村名	地名	立地	調査面積 (0)	時期	発見状況等	大型土坑	中大型土坑	備考
愛知県	名古屋	名古屋三の丸遺跡	洪橋台地	9000	弥生時代後期	方形溝溝堀1基	58	弥生時代中期～古代までの土坑10基の大型土坑5基	『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第15巻』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
	豊田市	高橋遺跡(第1次～第3次)	洪橋台地		弥生時代後期	竪穴住居4棟	0	中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	『豊田市郷土資料館編1971「高橋遺跡」』豊田市教育委員会
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第4次)	洪橋台地	3240	弥生時代後期	竪穴住居10棟 (特殊溝溝堀2号を含む)	0	大型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	久永孝男、斎藤孝彦他1969「高橋遺跡」豊田市教育委員会
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第6次)	洪橋台地	660	弥生時代後期	竪穴住居54棟	0	中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	『豊田市郷土資料館編1976「高橋遺跡第六次調査報告」』豊田市郷土資料館報告11『豊田市教育委員会
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第7次)	洪橋台地	1800	弥生時代後期	竪穴住居6棟以上	0	中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	『豊田市郷土資料館報告12』豊田市教育委員会
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第8次)	洪橋台地	1390	弥生時代後期	竪穴住居9棟以上	0	中型土坑で竪穴住居の貯蔵穴がある。	『豊田市郷土資料館報告13』豊田市教育委員会
愛知県	名古屋	高橋遺跡(第34次、第39次)	洪橋台地	3700	弥生時代後期	竪穴住居4棟	3	1 大型土坑はWSKO1土層掘削?を含む。竪穴住居などとの付帯木構2003「埋蔵文化財調査報告書6」の高橋遺跡(第34次、第39次)、『名古屋市文化財調査報告60』名古屋市の教育委員会	『名古屋市文化財調査報告60』名古屋市の教育委員会
愛知県	稲沢市	堀之内内花ノ木遺跡	沖積段高地	7100	弥生時代後期	竪穴住居9棟	2	1 基は竪穴住居と重複していて8B53より新しい。	『豊田県1994「堀之内内花ノ木遺跡」』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第32巻』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	一宮市	三ツ井遺跡	沖積段高地	12100	弥生時代後期	竪穴住居2基	0	1	田中伸明・鬼頭剛編「三ツ井遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第87巻』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	春日井市	岡野沢宮遺跡	沖積段高地	約15000	弥生時代後期	竪穴住居1棟、溝7条	12	4	石黒立人編1980「岡野沢宮遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第111巻』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
愛知県	津島市	春日遺跡	沖積段高地	約50000	弥生時代後期	竪穴住居22棟(竪溝)	1(竪溝) 50(溝堀) 11(溝堀)	0(竪溝) 0(溝堀) 0(溝堀)	石黒立人編1981「春日遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30巻』財団法人愛知県埋蔵文化財センター
三重県	松阪市	土寺遺跡	河原段丘	約5500	弥生時代後期	竪穴住居1棟 (他1棟)	0	0	『付録見解編1981「土寺遺跡発掘調査報告書」』松阪市の文化財調査報告5-2』松阪市の教育委員会
三重県	明和町	河原段丘遺跡	河原段丘跡地	約900	弥生時代後期	方形溝溝堀2基	0	0	山沢義典・谷本敬次1971「金明池遺跡発掘調査報告、明和町教育委員会
三重県	松阪市	小谷赤坂遺跡(第5次)	丘陵上	2560	弥生時代後期	竪穴住居9棟、竪穴柱建物1棟	20	10	伊藤裕治編2005「天谷寺丘段丘遺跡発掘調査報告書11」『三重県埋蔵文化財調査報告260』三重県埋蔵文化財センター
三重県	松阪市	小谷赤坂遺跡(第6次～7次)	丘陵上	3100	弥生時代後期	竪穴住居9棟、竪穴柱建物2棟、方形2	4以上	4以上	伊藤裕治編2005「天谷寺丘段丘遺跡発掘調査報告書11」『三重県埋蔵文化財調査報告259』三重県埋蔵文化財センター
三重県	新市	野田遺跡(第1次～第3次)	丘陵上	約1000	弥生時代後期	竪穴住居9棟	0	0	渡生悦生1974「野田遺跡発掘調査報告書」『津市埋蔵文化財調査報告8』津市教育委員会
三重県	津市	野田遺跡(第4次～第5次)	丘陵上	約800	弥生時代後期	竪穴住居3棟	1	1	渡生悦生1974「野田遺跡発掘調査報告書」『津市埋蔵文化財調査報告8』津市教育委員会
三重県	玉城町	よべ越跡	丘陵の裾野	384	弥生時代後期	方形溝溝堀3基	0	0	三重県教育委員会1979「国史院天谷寺丘段丘遺跡発掘調査報告書埋蔵文化財調査報告」
三重県	四日市市	大谷遺跡	洪橋台地	約2700	弥生時代後期	竪穴住居12棟	1	1	小玉道明他1966「大谷遺跡発掘調査報告書-A地区、B地区」、『四日市市埋蔵文化財調査報告2』四日市市教育委員会、四日市遺跡を守る会、小玉道明1976「大谷遺跡発掘調査報告書-C地区の遺構」、『四日市市埋蔵文化財調査報告11』四日市市教育委員会、伊藤共1977「大谷遺跡発掘調査報告書II-C地区の遺構」、『四日市市埋蔵文化財調査報告14』四日市市教育委員会
三重県	四日市市	西ヶ川遺跡	洪橋台地上	約4000	弥生時代後期	竪穴住居17棟 (特殊溝、欠山9棟)	1	3	大型土坑は竪穴住居跡のものSK107、不整方形、一边2.5m、平段なし、平段、深さ15cm、中型土坑は竪穴土盛出し、古墳時代後期は竪穴住居10棟、土坑15ヶ所(全て大型のもの)。
三重県	四日市市	永井遺跡	台地上	約2800	弥生時代後期	竪穴住居19棟	0	0	弥生時代後期は不明、土坑の報告なし。
愛知県	名古屋	三王山遺跡	洪橋台地		弥生時代後期～弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭	竪穴住居22棟以上	0	0	『三王山遺跡発掘調査報告書』名古屋市の教育委員会
三重県	伊勢市	磯間遺跡	上段段丘	22500	弥生時代後期	竪穴住居10棟	2	2	『伊勢市の文化財調査報告5』伊勢市の教育委員会
愛知県	豊田市	高橋遺跡(第9次)	洪橋台地	1200	弥生時代後期	竪穴住居17棟 (特殊溝、欠山9棟)	2	2	『豊田市郷土資料館報告17』豊田市教育委員会
愛知県	春日井市	春日遺跡	沖積段高地	3882	弥生時代後期	竪穴住居25棟、方形溝溝堀3基 (第16以上)	1以上	1以上	『春日井市埋蔵文化財調査報告17』春日井市教育委員会
愛知県	名古屋	西宮台遺跡	洪橋台地		弥生時代後期～古墳時代前期初頭	SE955棟	1	1	『西宮台遺跡発掘調査報告書』名古屋市の見解台考古資料館
愛知県	名古屋	西宮台遺跡	洪橋台地		弥生時代後期～古墳時代前期初頭	SE1044棟	7	7	『西宮台遺跡発掘調査報告書』名古屋市の見解台考古資料館
愛知県	名古屋	西宮台遺跡	洪橋台地		弥生時代後期～古墳時代前期初頭	8棟	6	6	『西宮台遺跡発掘調査報告書』名古屋市の見解台考古資料館
愛知県	名古屋	西宮台遺跡	洪橋台地		弥生時代後期～古墳時代前期初頭	3棟	3	3	『西宮台遺跡発掘調査報告書』名古屋市の見解台考古資料館
三重県	松阪市	川原表遺跡	丘陵段高地	約2000	弥生時代後期	竪穴住居6棟	0	0	『西田尚生・堀田昭1990「中野寺古墳群発掘調査報告書」』松阪市の教育委員会
愛知県	一宮市	王子遺跡	沖積段高地	23740	弥生時代後期	(前期) 竪穴住居28棟、竪穴柱建物58 1棟、(後期) 竪穴住居7棟	58	1	大型土坑は12基+46基 (古墳時代前期を含む)。H地区:地上昇降2001「王子遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第2巻』財団法人愛知県教育サービスセンター『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第2巻』
三重県	朝日町	辻子遺跡	丘陵段谷部	22808	弥生時代後期	竪穴住居7棟、水田22坪15畝	8	8	大塚土坑は竪穴住居内貯蔵穴2基含む、SH4・5の間に中ずするが遺構は復しない。
三重県	松阪市	堀田遺跡	沖平野段高地	14926	弥生時代後期	竪穴柱建物4棟 (遺構の前半を享受している。集落の中心部と外にもある。)	14	0	大塚土坑の内1基は井戸SE327。竪穴柱建物とは重複しない。『三重県埋蔵文化財調査報告123-7』三重県埋蔵文化財センター

県名	市町村名	遺跡名	立地	調査面積 (1)	時期	遺構・出土品等	大型土坑	中型土坑	備考	文献
愛知県	一宮市	山中遺跡	沖積扇高地	4800(4次と5次併せて)	弥生時代後期～縄間式	方形周溝溝10基	16	2	大型土坑(SZ10・SZ11とSZ13の内主柱として検出されている。他にSZ10C・南内形の土坑5～6基、中型土坑はSZ10のマウンドから。	石黒立人編1993「山中遺跡」、『愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第45集』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
三重県	松阪市	村付ノコ遺跡 第3次	沖積扇高地	11500	弥生時代後期～縄間式	竪穴住居11棟(方形)	1		大型土坑は井戸。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
三重県	松阪市	村付ノコ遺跡 第2次	沖積扇高地		弥生時代後期～縄間式	竪穴住居3棟	4		大型土坑は新しい時代のものもあるか。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	春日井市	勝川遺跡 上屋敷地区	沖積扇高地		弥生時代後期～古墳時代前期	方形周溝溝22基	0	0	井戸は土坑と分れる(土坑あり)。土坑は竪穴住居(SZ20)に連続し、14基は竪穴住居と分ち、連続・重複する。土溝溝4基は含まず。あまり重複しない。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	春日井市	勝川遺跡 南東山地区	沖積扇高地		弥生時代後期～古墳時代前期	竪穴住居8棟	5以上		大型土坑は掘削不明	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	春日井市	三上土遺跡	丘陵上	4900	弥生時代後期～古墳時代前期	竪穴住居7棟、方形周溝溝	2	5	村内遺跡1999「三上土遺跡(第1～5次)」、『名古屋文化財調査報告書40』名古屋教育委員会	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
三重県	伊勢市	野間内遺跡	河岸段丘縁辺	11000	弥生時代後期～古墳時代前期	竪穴住居21棟、土器棺1基、方形周溝溝4基	20	0	本型土坑の中央部は井戸(竪穴住居と分れる(土坑あり))。土坑は竪穴住居(SZ20)に連続し、14基は竪穴住居と分ち、連続・重複する。土溝溝4基は含まず。あまり重複しない。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	津州市	洲崎遺跡	沖積扇高地	11591	弥生時代後期～古墳時代前期	竪穴住居75棟、竪穴墓5基	21	3	本型土坑の中央部は井戸(竪穴住居と分れる(土坑あり))。土坑は竪穴住居(SZ20)に連続し、14基は竪穴住居と分ち、連続・重複する。土溝溝4基は含まず。あまり重複しない。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
岐阜県	岐阜市	砂丘遺跡	丘陵斜面	11250	弥生時代後期～古墳時代前期	竪穴住居53棟、掘立柱建物1棟	0? 不明	0?		三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
三重県	名張市	城瀬遺跡	河岸段丘	2000	弥生時代後期～古墳時代前期	竪穴住居8棟	0	0		三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	一宮市	三ツ井遺跡	沖積扇高地	112100	古墳時代前期後半	竪穴住居6棟以上	1		大型土坑は井戸で、溝とセットになる。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	津田市	南山遺跡	赤松台地	7220	古墳時代前期初頭	竪穴住居19棟、掘立柱建物2棟、方形周溝溝1基	3	1	大型土坑は性格不明遺構を含む。SK17が1基のみ遺構する。他は竪穴住居の周辺50m内外に分布する。中型土坑は性格不明遺構。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	津田市	高橋遺跡(第1次～第3次)	赤松台地		古墳時代前期初頭	竪穴住居28棟	1		大型土坑は柱礎との重複はない。中型土坑で竪穴住居の跡・窟穴がある。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	津田市	高橋遺跡(第2次)	赤松台地	3240	古墳時代前期初頭	竪穴住居13棟	0		中型土坑で竪穴住居の跡・窟穴がある。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	津田市	高橋遺跡(第3次)	赤松台地	1660	古墳時代前期初頭	竪穴住居5棟	0		中型土坑で竪穴住居の跡・窟穴がある。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	津田市	高橋遺跡(第7次)	赤松台地	1800	古墳時代前期初頭	竪穴住居6棟以上	0		中型土坑で竪穴住居の跡・窟穴がある。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	名古屋市中区	高橋遺跡(第44次・第45次)	赤松台地	3700	古墳時代前期初頭	竪穴住居4棟	0	0	中型土坑で竪穴住居の跡・窟穴がある。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	津州市	土古遺跡	沖積扇高地	48000	古墳時代前期初頭	竪穴住居13棟	42		方形周溝溝に隣接する。SK17がSZ09と重複するか？	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	一宮市	八王子遺跡	沖積扇高地	23740	古墳時代前期初頭	竪穴住居59棟(間隔式)+8棟(間隔式)、掘立柱建物8棟、区画溝あり	72		大塚土坑は26基+46基。(弥生時代後期を含む)	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
三重県	玉城町	仲山内遺跡	丘陵の裾部	400	古墳時代前期初頭	竪穴住居1棟	0	0		三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	津州市	朝日遺跡	沖積扇高地	約50000	古墳時代前期初頭(VI～VII期)	竪穴住居6棟+9棟(古墳時代(前期))	0(西部) 23(南部) 9(東部) 0(北部)	0	段縁不明土坑が、12(西部)+3(南部)。内、南部の5基は竪穴住居と重複する。多数の土坑は26基+46基。(弥生時代後期を含む)	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
三重県	玉城町	勝川遺跡	赤松台地縁辺	5000	古墳時代前期初頭、縄間～I式	竪穴住居2棟	0	0		三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
三重県	津州市	中津遺跡	赤松台地	420	古墳時代前期初頭、縄間式	竪穴住居1棟	0	0		三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
三重県	伊勢市	中津山遺跡A地区	低位丘陵上	掘堀グランド	古墳時代前期初頭、縄間式	竪穴住居2棟	2		大型土坑は赤松。重複なし。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
三重県	玉城町	赤里内遺跡	丘陵の裾部	750	古墳時代前期初頭主体	竪穴住居8棟、掘立柱建物1棟	0	0		三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	名古屋市中区	名古屋城三の丸遺跡I	赤松台地	9000	古墳時代前期初頭～前期前半	竪穴住居23棟、方形溝1条	58		弥生時代中期～古代までの土坑100基の内大型土坑58基	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	津州市	堀之内花ノ木遺跡	沖積扇高地	7100	古墳時代前期前半	竪穴住居23棟	1		堀之内花ノ木遺跡。大塚土坑は堀之内と重複する。注：とは重複しない。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
愛知県	津州市	西上免遺跡	沖積扇高地	110568	古墳時代前期前半	竪穴住居1棟、竪穴墓5基、溝5条、水田15筆	3		竪穴住居は堀之内に連続し、大塚土坑は堀之内と重複する。注：とは重複しない。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
三重県	津州市	中津遺跡	河岸段丘	3496	古墳時代前期前半、縄間Ior後半	竪穴住居1棟	0	0		三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
三重県	津州市	中津遺跡	赤松台地	420	古墳時代前期前半、縄間式	竪穴住居3棟	0	1	他に数基の土坑あり。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」
三重県	津州市	新畑遺跡A地区	丘陵上	700	古墳時代前期前半、松戸I式	竪穴住居9棟(内1棟は方形周溝溝1棟)	5		大塚土坑の3基は竪穴住居と重複している。中型土坑は竪穴住居の内竪穴土坑4～5基を含む。	三重県埋蔵文化財センター2005「『一般国庫42号ノコバス松阪・多気発掘調査ニュースNo.19』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」 三重県埋蔵文化財センター2005「『村付ノコ遺跡(第3次)発掘調査現地説明会資料』三重県埋蔵文化財センター」